

1. 滑空機の改良および整備
特に活動は無かった。
2. 指導者の養成（指定養成施設委員会担当）
 - A. 自家用操縦士の技能証明技能審査員認定 玉中 宏明 氏 (8/4,05')
 - B. 指定航空従業者養成施設での自家用操縦士の養成 本年度は下記 19 名を養成。

期	訓練所	修了日	修了者	
第1期	宝珠花	6/14	1	松澤裕治
第2期	岐阜	7/8	5	篠田貴浩、鬼頭宏彰、木下真佐秀、永井裕敦、山田剛央
第3期	山梨	7/8	4	梅田慶太、小島祐、中村綱太、平野申明
第4期	静岡	8/2	2	高寄浩一、田中朋克
第5期	板倉	11/26	3	二宮聖、岩田幸雄、奈良光将
第6期	山梨	12/11	2	渡邊浩好、若松佑太
第7期	三重	1/21	2	本田日出男、岩崎靖璋

- C. 航空安全講習会（航空安全講習会委員会担当）
国土交通省航空局通達による“自家用操縦士の技量維持に係わるガイドライン”に基づく講習会の開催。（社）日本航空機操縦士協会が（財）空港環境整備協会の助成金を受け、（社）日本滑空協会、NPO 法人日本オーナーパイロット協会、（社）日本飛行連盟、全国自家用ヘリ協議会とともに毎月連絡会議を開催し、推進、実行している。

会合名	日時	開催場所	参加者
認定講師研修会			
前期	6/25	東京新橋航空会館	44
後期	11/26	東京新橋航空会館	21
安全講習会			
第1回	7/2	東京新橋航空会館	29
第2回	7/17	岐阜県大野町	43
第3回	8/14	大分県竹田市久住町	28
第4回	10/10	宮城県角田市	15
第5回	11/13	岡山県岡山市 岡南	15
第6回	1/21	三重県伊勢松坂市	31
第7回	2/25	東京新橋航空会館	46

3. 滑空選手権の開催、後援、ならびに国際大会への選手派遣
 - A 第20回日本滑空選手権大会（当協会主催競技委員会担当）
4/10 公式練習日 4/16-17、23-24,05' 関宿滑空場
スタンダードクラス 9機、18mクラス 5機参加
スタンダードクラス 優勝 上阪崇弘 準優勝 斉藤岳志 3位 森中祐治 9選手参加
18mクラス 優勝 口村啓二 準優勝 高森晴樹 3位 中西敬夫 5選手参加
文部大臣賞 上阪崇弘
 - B 第43回全日本高等学校滑空選手権大会 8/5-8/7,05' 韮崎滑空場（山梨）
（後援名義提供、第一部および二部優勝・準優勝・3位者に日本滑空協会会長賞授与）
日本航空高等学校グライダー部、日本航空第2高校モーターグライダー部、
慶応義塾高等学校航空部 出場選手総数 35名
第1部：1位 小嶋佑（日本航空高3年）、2位 平野申明（日本航空高3年）
3位 梅田慶太（日本航空高3年）
第2部：1位 大迫勇祐（日本航空二高2年） 2位 竹岡靖弘（日本航空高1年）
3位 後藤寛明（日本航空二高1年）
 - C 第9回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会 8/11-19,05' 於妻沼滑空場
（後援名義提供、団体優勝・準優勝・三位者への賞状授与、最優秀選手・優秀選手から

個人第6位までに賞状授与)

日本大学理工学部グライダー部、東海大学湘南校舎体育会航空部、千葉工業大学体育会航空部、関東学院大学体育部連合会航空部、青山学院大学体育会航空部、学習院大学航空部 参加。

団体：原田覚一郎杯 日大 B、準優勝 日大 A、3位 東海大 A

個人：最優秀選手 浅倉洋 (東海大 A)、優秀選手 蒲寛人 (日大)、3位 引地航平 (日大)

D 第8回東京六大学対抗グライダー競技会 妻沼 8/21-28,05 ‘

(後援名義提供、優勝者個人への盾授与)

慶応義塾体育会航空部、東京大学運動会航空部、法政大学体育会航空部、明治大学体育会航空部、立教大学体育会航空部、早稲田大学航空部 参加。

団体：優勝 早稲田大学、準優勝 東京大学、3位 慶應義塾大学

個人：優勝 尾松俊 (東大)、準優勝 田口陽子 (早稲田)、3位 山下貴也 (慶應)

E 第7回全日本学生グライダー新人競技大会 10/2-8,04 ‘於木曾川滑空場 中止

F 第25回東海・関西学生グライダー競技会 11/12- 於木曾川滑空場

個人：優勝 鈴木章充 (名大)、準優勝 吉山晃宏 (関西大)、第3位 伊田奈保子 (龍谷大)

団体：優勝 名大 A、準優勝 関西大学 B、3位 大阪工業大学

G 第20回関東学生グライダー競技会 12/17-23 於妻沼滑空場 (後援名義提供)

個人：優勝 増子慎一郎 (慶応)、準優勝 大堀宏海 (慶應)、3位 田口陽子 (早稲田)

団体：優勝 日大 A、準優勝 慶応 B、3位 日大 B

H 第45回全日本学生グライダー競技選手権大会 3/5-13,05 ‘於妻沼滑空場

12校 16チーム 35選手出場

個人：優勝 浅倉洋 (東海大)、準優勝 家村耕一 (慶應)、3位 引地航平 (日大)

団体：優勝 日大 A、準優勝 早稲田 A、第3位 慶應 A

I 第44回全国七大学総合体育大会グライダー競技の部 (3/14-22 於関宿滑空場)

団体：優勝 名古屋大学、準優勝 九州大学、第3位 東北大学

個人：優勝 鈴木章充 (名古屋大)、準優勝 坂口正大 (九大)、第3位 佐々木一誠 (東北)

J エアロパティックジャパン in 角田 2005年 10/8-9,05’ 於宮城県角田滑空場

優勝 川合真和 (B4)、2位 加藤隆士 (B4)、3位 森中玲子 (Fox)、4位 鐘尾みや子 (Fox)

K 国際競技会結果 当協会が出場を承認した競技会について

a 第29回世界滑空選手権プレ大会 (スウェーデン Eskilstuna 6/15-23)

18m Class 5位/11選手 市川展 (Ventus 2cx 18m)

b 第13回ヨーロッパ滑空選手権 (スロバキア Nitra 7/12-8/8)

18m Class 8位/33選手 市川展 (Ventus 2cx 18m)

c 第3回女子世界滑空選手権 (ドイツ Klix 7/30-8/13)

18m Class 16位/16選手 廣常朱美 (LS-8)

4. 航空スポーツ安全確保、普及活動

A アクシデント・レビュー

① 久住滑空場でのウインチ曳航中の墜落事故 死亡2名 5/17,05’

② 関宿滑空場での曳航中のモーターグライダー墜落事故 7/22,05’

③ 天竜浜北滑空場でのウインチ曳航中の墜落事故 死亡1名 7/24,05’

④ 関宿滑空場での着陸直前の墜落事故 死亡1名 8/20,05’

⑤ 妻沼滑空場での着陸直前の着水転覆事故 死亡1名 8/31,05’

⑥ 鬼怒川氏家滑空場でのモーターグライダー着陸時事故 12/18,05’

⑦ 板倉滑空場でのモーターグライダー着陸時事故 3/12,06’

B 安全に関する活動

a 10/22,05’臨時総会を開催し、平成17年度事業計画を変更。本年度の事故多発、多くの滑空場で長期の滑空活動自粛に伴い、本年度は日本滑空選手権を中止し、アクティブなパイロットの“技量確認”、技量確認システムの向上のための“安全推進討論会”開催 (3/18,06’)、および根本的な課題を勉強するために全国で開催する“安全セミナー”で構成する“安全レビュー”実施を決議。

b 航空安全講習会：上記2.Cに記載

c 当協会ホームページに緊急提言を掲載 7/29,05’

7/24 天竜川浜北滑空場での事故で年頭からの重大事故が 3 件になったことに対して、牧野会長名で緊急提言を掲載。

- d. グライダー安全運航にかかわる意見交換会 9/18,05' 於朝日新聞東京本社読者ホール
当協会主催で全国から 146 名が参加、当協会の安全取組みについての説明、最近の事故事例 6 件についての当事者からの状況説明、各グライダークラブでの安全対策の説明、会場からの意見表明などのプログラムを実施。
- e. 滑空機指導者連絡会 9/26,05' 於経済産業省別館
国土交通省航空局乗員課、当協会共催
全国の滑空クラブ指導者、安全講習会認定講師 50 名が参加。第 1 部は航空局乗員課の滑空機実地試験実施細則改定についての公聴会、第 2 部は最近の事故事例 6 件についての当事者からの状況説明と質疑応答を実施。
- f. 再度緊急提言 メールで会員に配信 12/19,05'
- g. 安全セミナー：ヒューマンファクターの講演会
* 日本学生航空連盟加盟校教官 12/3 於朝日新聞社読者ホール 70 名参加
* 関西地区 1/14,06' 於朝日新聞大阪本社会議室 40 名参加
* 関東地方 2/4,06' 於朝日新聞社読者ホール 55 名参加
- h. 全国グライダー安全飛行大会 3/24-26 於板倉滑空場
トヨタ自動車(株)協賛、日本グライダークラブとの共催で、公開公募で全国滑空場教官 22 名に対して異常飛行および回復体験を実施。
インストラクター 植田展生氏、加藤隆士氏、鐘尾みや子氏、森中玲子氏
訓練生 24 名 (内 2 名座学のみ)、機材 Blanik JA2462、MDM-1Fox JA21FX

C 航空スポーツ普及活動

- a. 7/23-24,05 ' に関宿滑空場で行われた「スカイ・レジャー・ジャパン 05 'イン野田」に参加。
二日間の SLJ 参加者は 5.8 万人、当協会は下記を実施。
* ブースの設置、
* 歴史的滑空機展示として当協会所有 Slingsby T-51 Dart (JA2070)の展示、
* Red Fox 植田展生氏による MDM1-FOX (JA21FX)、ならびに加藤隆士氏による B-4 でのエアロバティック飛行、
* LAK-16 プライマリーグライダーの地上滑走 (105 名体験搭乗) を実施。
- b. 第 11 回スカイスポーツシンポジウム (社) 日本航空宇宙学会主催 への参加
12/13-14,05 ' 於日本大学理工学部 (担当：鐘尾みや子氏)
佐藤一郎氏による萩原式滑空機の歴史に関する特別講演。

5. FAI 滑空機関連業務

- A. 本年度 IGC 委員は当協会会長牧野健氏に委嘱、前任者：市川展氏、CIMP 委員は引続き嶋田和人氏に委嘱
- B. IGC 委員会 3/4-5,05' ローザンヌ 市川氏出席。
- C. FAI 国際医事委員会 8/27-28 ワルシャワ 嶋田氏出席、副委員長就任。
- D. 国内滑空記章申請、受付ならびに交付業務
 - a. 平成 17 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの各章交付数は次のとおり
A 章 55 件、B 章 43 件、C 章 42 件、銅章 36 件
 - b. 本年度より滑空記章証明書をカードに変更。
- E. 滑空記章試験員関係
 - a. 中間申請者に対して資格審査を行い、8 名を試験員に任命した。任期は平成 17 年年末。
その段階での試験委員総数は 78 名
 - b. 滑空記章試験員の任期満了に伴い、3 年間の任期中の報告書提出を要請。改めて 77 名任命。
(58 名が公式立会人と兼務)
- F. 公式立会人関係
 - a. (財) 日本航空協会より FAI Sporting Code Section 3 Annex C の翻訳を受託、実施。
公式立会人および日本滑空記章試験員に配布。
 - b. 公式立会人の任期満了に伴い、3 年間の任期中の報告書提出を要請。審査後 62 名を (財) 日本航空協会に推薦し、任命された。

6. 滑空機検査業務に関する調査および支援
航空機としての滑空機の耐空性を検査する業務を行う滑空機検査事務局は平成17年3月31日に(財)日本航空協会から国土交通省航空局に返還されたが、それを(社)日本滑空協会内に受け入れる活動を行っているが、まだ実現されていない。
7. 各種公認事業
3項の各種競技会後援、“滑空への招待”出版の添え書き、“カレンダー”出版の公認
8. 専門部会の活動
- A. 総務委員会
- B. JSA information 編集委員会
当協会機関紙“JSA information”はNo.267~272を刊行した。我が国の数少ない滑空関係情報源として、一層の質的レベル向上が図られた。
- C. クロスカントリー・競技委員会
クロスカントリークリニックの実施、第20回日本滑空選手権大会の開催準備、およびクロスカントリーセミナーを実施した。(第4項参照)
- D. 指定航空従事者養成施設運営委員会 (2.B参照)
- E. 技術委員会
- F. 滑空場委員会
- G. 曲技飛行委員会
スカイレジャー・ジャパンでのエアロバティックデモンストレーション、全日本グライダー安全飛行大会のインストラクター
- H. 国際委員会
IGC委員牧野健氏、FAI医事委員嶋田和人氏を推挙、委嘱を受ける。
- I. 安全委員会の発足
9. その他
- A. モーターグライダー運用
鈴与(株)よりタイフーン(JA2378)の無償貸与を受け、当協会会員の飛行活動に供する。(株)日本モーターグライダークラブ(JMGC)に同機の駐機、保守整備、運航管理等を委託して実施する。2月上旬現在耐空検査取得準備完了の状況。
当協会会員はJMGCでチェックを受け、機長として承認されれば、¥24,000/時間の料金の巡航速度205km/h、航続5時間の高速を生かした飛行に利用できる。
10. 平成17年度の各種助成金
- A. スポーツ振興基金
- B. 子どもゆめ基金助成金
11. 平成17年度に実施した事務局主催の会議は下記
- | | | |
|--------|---|------------------|
| 定例総会 | 平成17年6月11日、 | 平成18年3月18日 |
| 臨時総会 | 平成17年10月22日、 | |
| 定例理事会 | 平成17年6月11日、 | 平成18年3月18日、 |
| 臨時理事会 | 平成17年6月11日 | 新任理事による会長、常務理事互選 |
| メール理事会 | 平成17年8月8日 | 安全委員会発足 |
| メール理事会 | 平成17年10月3日 | 事業計画変更 |
| 常務理事会 | 5/17、6/2、6/21、6/28、7/1、7/28、8/22、9/6、9/29、10/11、10/21、12/6、1/12、1/24、2/21、3/31. | |